

(様式1)

自己評価票

作成日 平成21年11月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	873200422		
法人名	聖北会 有限会社 敬七商事		
事業所名	グループホーム すずらんの里	ユニット名	こまどり 2丁目
所在地	319-0204 笠間市土師1283-252		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	
-----------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内
訪問調査日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族的な雰囲気の中での介護で居心地の良いグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は理念を基に職員と共にサービスを作り実践しています。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りの参加や協力などを近隣の方達に求め理解を深めて頂くようにしています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方に認知症の理解を求めて協力や助けを頂いていても地域に向けて活かして居るまではいかないです。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部より見たグループホームでの暮らしやサービスに対しての意見を求めサービスに活かしています。又、評価の報告を行い反省を踏まえてサービスに活かしています。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判断に困る事などが有る時は市町村担当者などに聞く事も有りますが連絡を密に取るまでにはいかないです。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者と職員で身体拘束をしない介護を行っています。事業所で勉強会を行い身体拘束の代替え案を考えるようにしています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームで勉強会を行い各ユニット間で互いに虐待が行われないように注意を払い見逃さないようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修の参加などで権利擁護に対してある程度の知識は有ると思いますが職員に詳しく説明するまでには行かないです。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時に説明を行い理解していただいている。解約の場合を一通りの説明を行い納得して頂くようにしています。改定の場合も書面にて承諾を求めています。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を何時でも聞けるように管理者はじめ職員にも指導しています。苦情などに対しては契約の時に重要事項説明書で説明しています。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、ミーティングを開き職員の意見を聞くようにしています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の定着などを含め人材の確保に努め無理のない労働を考えています。給料も現在思案中です。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量に応じて研修を促しています。資格の習得も促しているが、なかなか職員が自分で勉強は難しいようです。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修などの参加で同業者と関わる機会は有り情報交換はするようです。その後のネットワークづくりまではいかないようです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		サービス利用当初は不安も手伝い認知症が重症になったように見えるが、それも踏まえていねいな関わりを持つように心掛けています。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		サービス利用当初は家族との信頼関係を作り家族の持っている情報を多く聞くようにしています。それをサービスに反映されるように努力しています。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		グループホームでの他のサービス利用は難しい。グループホームでは何が必要か見極めるようにしています。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		自分で出来る事は自分で行って頂き自分でやる事の大切さをいつも日常生活の中で口に出して理解を求め、家事などの手伝いをして頂いています。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		気持ちの不安な方の支援など職員では困難な場合は家族に協力をもお止助けていただいています。会いたい時などは電話を本人がして来ていただいたりしています。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		本人の希望が有れば馴染みの人や場所などの関係に配慮したサービスを行っています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		利用者同士での会話なども多くしているようです、気の合う同志の話や行動を共にしている事は自由にして頂いています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		自宅に戻られてのサービスを終了する方が少なく終了後のフォローはあまり行うこともありませんが、家族などからの相談があれば応じています。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		一人ひとりの思いを聞くように努力をしているが暮らしの希望が認知症対応だけに難し が、本人本位の生活を考えています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		認知症対応だけに一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしを把握するのは難し が生活の中で理解をして行くようにしています。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		一人ひとりの一日の過ごし方は自由にして頂いていますが、その人の体力や健康状態を把握しながらその人に合った生活をして頂いています。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		本人、家族の協力を求めニーズの把握に努めています。ニーズに対してどうしたらより本人が納得できるか皆んで話あっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		ケアの個別記録を記入し職員間で情報を共有し、月に一回モニタリングを行い介護計画の見直しに活かしたいと思っています。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		その人に合ったサービスを行うように努力をし、その時に必要ならサービスの展開を考えるようにしています。その時に援助者がが 多人数必要となると職員だけでは対応しきれないので家族に協力を求めています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人に必要な時は家族を通じて利用をして頂いています。
	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望する医療機関に家族と受診しています。協力病院が希望の場合は職員が付き添います。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し訪問の時に必要なアドバイスを受けそれを元に受診し、以後の経過観察を一緒にお願いします。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時などは家族が行けない場合は定期的に職員が面会に行きます。その時に病院関係者と情報交換をしています。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の時に重度化した時の説明をして同意を受けています。重度化した時は協力病院と訪看の協力を得て対応するようにし家族とともに支援していきます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や自己発生時の対応は日頃よりミーティングなどで学習するようにしているが、実践力に対してはまだ未熟です。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼し避難訓練を行っているが、避難時の地域の協力を求めるまでは行っていません。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報ばかりではなく日頃の介護での着替えやトイレのドアを閉めるなどの基本的な事を勉強をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	管理者が職員に対して日常的に本人の思いや希望を表わせるように働きかける努力をするように促しています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にその人のやりたいこと出来ることを最優先に考えて支援するようにしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の着たい服を自由に選び他人が見ても違和感の無いようににアドバイスをするようにしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居の時の情報をして食事の好みを聞いているのを踏まえて日頃より職員の声掛けなどにより、好みメニューを考えています。配膳や食器の片付けなど出来る事をやっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体長、体格、年齢、などwも考慮して食事量を把握し毎日チェックしています。職員による毎日のメニュー作りでいどりと食材の変化を考えて食べやすく調理しています。水分は決まった時間に決まった量を取れるように支援しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に合わせて一日一回は必ず口腔ケアをは行っています。必要に応じて毎食に口腔ケアを行う場合も有ります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意、便意のサインに気をつけています。尿意、便意の感じない方は決められた時間の声掛け、トイレ誘導を行いトイレの支援を行っています。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表をもとに排泄を確認しています。水分量の管理、運動のすすめなどを行い便秘予防に努めています。それでま便秘の方は医師に相談して薬の処方などをして頂いています。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の入浴は希望があれば可能です。毎日ひとりに入浴の希望を伺う様にして本人の意思を尊重しています。体調悪い方の配慮や入浴の嫌いな方の支援も工夫して行っています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事直後の横になっての教則のどの禁止などのルールは決めているが、それ以外の居室での過ごし方は自由です。又、昼間の休みすぎで夜の就寝の妨げにならないように配慮もしています。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬については、かかりつけ医に相談し説明を受け管理をしておりその薬による変化に対しては訪看と共に観察に努めています。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同での生活で間合い毎日の生活が少しでも楽しいことが増えるようし又退屈しないように一人ひとりの出来る事やりたいことを引き出す努力をしています。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合わせた外出は時間的に無理ですが、月に一回は全員での外出に行くようしています。又、環境的に外出が無理な場合は全員が楽しめる事を実行しています。外食などを利用し入居者の理解を求め協力して頂いております。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		<p>入居者の方がお金を持ちたいとの希望でご家族の了解を得て持って頂いています。お金を使う機会が入居者の体力の低下と共に少なくなりましたが希望する時は職員の支援により希望する物を購入する事ができます。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		<p>希望があれば電話や手紙は自由にやり取りできます。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>共有の空間が利用者にとって誰でも立ち入り易いようになっています。トイレ、浴室などはわかり易くなっています。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		<p>テーブルの席が個人個人決まっております邪魔をされることは有りません。ソファを置いてありゆったりと座れ他の人と自由に会話を楽しめます。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>各居室は本人、家族により使い慣れた物の持ち込みや模様替えなどは本人と職員の相談によりその人に合わせて行っています。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>建物内部はバリアフリーになっており車いすや高齢者でも歩き易くなっています。トイレなどもわかり易い場所に設置して有り一人でも動きやすくなっています。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと ○ 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない